

サーチライト With Pastor Jon 創世記 7 章・8 章 パート 4

このメッセージはアップルゲート クリスマン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスマン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、目の治療をされました。どうか、りよくさんの病後の弱さを覚えて、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4 : 7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスマン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rumi

それからさらに七日待つて、再び鳩を箱舟から放った。

鳩は夕方になって、彼のもとに帰って来た。

すると、見よ、取ったばかりのオリーブの若葉がそのくちばしにあるではないか。

それで、ノアは水が地の上から引いたのを知った。

さらに、もう七日待つて、彼は鳩を放った。鳩はもう彼のところに戻って来なかった。

(創世記 8:10-12)

聖書預言を学んでいる皆さん、これはすごい預言ですよ。

鳩は 3 日、異なる日に放たれました。

1 日目、鳩はぐるりと回って戻って来たので、中に入れました。

2 日目、放たれた鳩がオリーブの若葉をくわえて戻って来たので、地が乾き始めたのを知りました。

そして 3 日目、ノアは新しい地ができて出現したのを知りました。

新しい日の始まり。

洪水が引いたので鳩は戻らなかったのです。

ところで、この 3 日というのは、それぞれ 1 週間毎の間隔があって、全部で 3 日です。

1 回目と 2 回目は、鳩は見える所にいました。

しかし、3 日目は新しい日。

なぜ 3 日目なのでしょう。

どうして、これが預言的なのでしょう。

2000 年前、イエスは死からよみがえりましたね。

主の御前では、一日は千年のようであり、千年は一日のようです。(IIペテロ 3:8)

2日間、聖霊が人々に働き続けていて、3日目に何かが起こる。

イエスの3000年目の年に、とでも言いましょうか。

イエスは3日目によみがえり、神の終末カレンダーでは3000年目に何かが起こります。

3000年目とはいつですか？

一日は千年のようであり、千年は一日のようだから、もう既に2日が過ぎ、もはや次の1000年紀・ミレニアムの夜明け、3日目に入っているのです。(※当時は1997年)

ここでは、ちょうど3日目に新しい地が現れています。

新しい地とは何でしょう？

それは千年王国。

人々は罪の影響から自由になり、ライオンは子羊と共にいる。(イザヤ 11:6)

イエス・キリストがエルサレムから支配・統治し、もう戦争はない。

「ジョン、それは飛躍し過ぎだよ。」 そんなことはありません。

ホセア書には、イスラエルのユダヤ人が主に立ち返る様子が書かれています。

よく聞いて下さい。

さあ、主に立ち返ろう。主は私たちを引き裂いたが、また、癒やし、私たちを打ったが、包んでくださるからだ。(ホセア 6:1)

ユダヤ人は、「私たちがずっと主を拒んできたので、打たれ、引き裂かれたのだ。」と言います。

主は二日の後に私たちを生き返らせ、三日目に立ち上がらせてくださる。私たちは御前に生きる。

(ホセア 6:2)

2日。2日の後に…

「私たちユダヤ国家・ユダヤ人は、彼を拒んだために打たれ、引き裂かれていることを、結果として受け入れている。しかし、2日の後に、彼が私たちを立ち上がらせてくれる。」

2000年の後、ユダヤ人は回復し、自分たちの地に帰って来るのです。

キリストがよみがえってから2日・2000年経っただけでなく、3日目は、イスラエルが神に立ち返って行く時なのです。

それは大患難の終わりであり、私たちは天にいて、地上に王国が来ます。

今まさに、霊的復興が起ころうとしています。

「どういうこと？」

黙示録7章。144000人のユダヤ人証人。各部族から1200人づつ。

彼らはイスラエル中に、最終的には世界中にくまなく散って行き、大患難の中で全イスラエルは救われます。

携挙でまず私たちが天に挙げられ、その後大患難と呼ばれる7年が始まりますが、その中を通り、乗り越えて、最後まで生き残った全てのイスラエル人が、ローマ書9・10・11章にあるように救われ、新生するのです。

「それで何を言いたいのか？」

2 日間、ユダヤ人たちは打ちのめされていた。

つまり、2000 年間、彼らには国がありませんでした。

しかし、時が来ました！

彼らは再び自分たちの国に戻り、靈的に生きようとしています。

携挙が今にも起ころうとしているからです。

3 日目に新しく生かされるのです。

それだけでなく、更に驚いたのはこの箇所を読んだ時です。

六百一年目の第一の月の一日に、水は地の上から干上がった。

ノアが箱舟の覆いを取り払って眺めると、見よ、地の面は乾いていた。(創世記 8:13)

いつ？ ノアが 600 歳の時？ いいえ、601 歳。

ということは、彼は人生の 7 世紀目に入っていました。

『7』は完成数。

「ナニ!?!」いいですか？

ノアは、新しくされた世界、よみがえった地を、彼の人生の 7 世紀目になる第 1 年目の第 1 の月の 1 日に見たのです。

600 年が過ぎ去り、7 世紀目の初めに！

彼は周りを見渡して、「地が復興している！ 世界が新しくなった！ 世界が息吹いた！」

なぜなら、聖書では『7』はいつも大きな意味を持っているから。

人は 6 日間働き、7 日目は安息日・休息。

旧約聖書の中では、奴隷が 6 年間仕えた後、7 年目の初めに自由になります。

これ以外にもたくさんの例がありますね。

言えることは、6 日働いて 7 日目は休む。

6 年間奴隷でも、7 年目は自由になる。

最初の 600 年間仕え続けてきたノアが、人生の 7 世紀の初めに箱舟の中から外を見た時、万物は新しくされ、復興していたのです。

「何が言いたいのか？」

系図をさかのぼってみると、アダムの生きた時代はおよそ 4000 BC。

今は AD 2000。4+2=6

聖書によれば、人類の歴史は 6000 年。

一日は千年のようであり、千年は一日のようだから、それは 6 日。

つまり、AD 2000 の時点で、私たちは 7 日目に突入したことになるのです。（* 当時は 1997 年）

安息日・休養の日。

罪や墮落の奴隷が自由になる 7 年目。

第 601 年の第 1 の月の 1 日、ノアの人生の 7 世紀目の初め、彼は周りを見渡して思ったことでしょう。「世界はこうあるべきだ。」

神の裁きによって無駄なものは洗い流される。

新しい日。

これは王国の描写です。(会衆；アーメン！)

「では、その日は、新しい千年紀の第 1 の年の第 1 の月の 1 日に来るのか？」

そうかもしれないけど、私には分かりません。

聖書にはその日がいつかは記されておらず、系図も 100% 確実ではないから。

それでも言えるのは、本当に、確実に終わりに近づいているということ。

だから、千年王国や何であれ、そのことで、私たちがバカげていると呼ぶ人たちのことは何も気にしていません。

この群れの周りで嘲り、バカにしても、私たちは何の影響も受けません。

それはただ、聖書預言が成就しているのですから。

終わりの時に、嘲る者たちが現れて嘲り、自分たちの欲望に従いながら、こう言います。

「彼の来臨の約束はどこにあるのか。」

父たちが眠りについた後も、すべてが創造のはじめからのままではないか。」(II ペテロ 3:3-4)

終わりの日にはこれが起こるとペテロは言いました。

私は今が最後の日、主が戸口まで来られていると信じています。

それが 2000 年 1 月 1 日に起こるかは分かりません。

でも、近々起こります。

それがいつなのか誰にも分からないから、私はこのように詳細に書かれた預言の図が好きなんです。

これらのことはクイズ番組のために書かれたのではなく、私たちが神の預言した計画を知り、希望を得るために書かれました。

「何の希望？」

船に揺られて漂っている間、試練に直面している間、神は言います。「希望を失うな！」

「わたしを覚えて、これを行いなさい。」(ルカ 22:19)

イエスは私たちに「わたしを覚えてこれを行うように。」と言い、使徒パウロは「これを行うことによって、主の死だけでなく、再臨をも祝うのだ。」と言いました。

いいですねえ。3 時間くらいあったらいいんだけど、ないので…

時が過ぎ、新しい地、新生された世界がそこにありました。

ちょうどイエスが再臨して千年王国が始まる時のように。

遂に、古いものは全て流され、全部なくなって、新しい日、新しい王国！

なんて素晴らしい！

神はノアに告げられた。(創世記 8:15)

377 日振りに、遂に、神はノアに語りました。

「出なさい。」(創世記 8:16)

この箇所を○で囲んで下さい。

7 章 1 節では「Come／入りなさい。」と言ひ、ここでは「Go／出なさい。」

1 年以上経って、ようやく今、ノアは主の声を聞きます。

最初に「Come／入りなさい」と言ひ、次に「Go／出なさい」と言うその声を。

いつもそうです。

神は「わたしのところに来なさい。」と言って私たちを呼び、行くと、次は「出なさい。」

「出て行け！」ではなく…

「もう、あなたは満たされている。もう、吸収した。すべきことはたくさんある。新しいミニストリーが始まろうとしている。」と主は言います。

「ノア、入りなさい。」それでノアは箱舟に入り、主と共にいました。

そして今、出ようとしています。

ここで私はとても驚きました。よく聞いて下さい。

ノアは地が乾いていることを既に知っていましたよね。

なのになぜ、窓を開け放って脱出しなかったのでしょうか？ 出たくなかった？

377 日間、動物たちと箱舟に揺られて、山に留まったんですよ。

でも、「この箱舟が壊れる前に…」とか「アララテ山から滑り落ちる前に…」

「みんな、荷物をまとめろ！ 窓からコソコソ逃げるんだ。」「船を揺らすんじゃないぞ。」

「外は乾いた。さあ、出よう！」などと言って出ることはしなかった。

神が「行きなさい」と言うまでは行かなかったのです！

ここで私は「なぜ!？」と思うわけです。「好奇心が失せたのか?」と。

ここがポイントですよ。

ノアは気づいたのです。あなたがこれから気づくことに。

あなたが混乱や試練の最中に見つけることを、彼は見つけたのです。

他の人には分からなくても、彼は主の臨在を感じていました。

他から見れば、その所に閉じ込められているように見えるかもしれないけれど、その中にいる者は、「そうじゃない。神と一緒に籠っていたんだ。」と言うでしょう。

「神が今行っている計画が分からなくても、神の声が聞こえなくても、主は私に、理解を超える平安を与えてくれている。いつも主の臨在を感じているんだ！」

「主の臨在が私を取り囲んでいるんだ！」

「この船がどこに向かっているのか、これからどうなるのか、全然分からない。

あなたから見れば、この船のこの臭い、動物たちの鳴き声も尋常じゃないと思うだろうが、でも何かが違うんだ。神と一緒に籠っているから平安がある。」

「しばらくの間、神とずっと一緒にいたから、今、上手く逃げ出そうとは思わない。」

「これでいいんだ。時が来たら神が言われるから。」

そして、「今だ！ わたしは今まであなたと共にいた。今こそ外に出なさい。すべきことがたくさんあるから。」

たくさん言いましたが、これがクリスチャンとして生きるためのカギです。

「神の臨在の中に入る」そして「神の力を携えて外に出る」
「来て、入って、出る」「来て、入って、出る」
「来て、入りなさい」そして 377 日後に「出なさい」そしてまた「来なさい」…
ちょうど呼吸のように吸って吐く。
吸ってばかりじゃ過呼吸で、吐いてばかりだと酸欠になる。
「吸って、吐く」これがクリスチャンとして生きるためのカギです。
とてもシンプルで本質的なこと。
中に入れて、外に出す。
「来て入りなさい。」行って入ると「出なさい」それで外に出て行く。
ノアは外に出ました。どうなったか見てみましょう。

*ノアは、息子たち、彼の妻、息子たちの妻たちとともに外に出た。
すべての獣、すべての這うもの、すべての鳥、すべて地の上を動くものも、種類ごとに箱舟から出て来た。
(創世記 8:18-19)*

私なら恐らく「やったー！ 自由だ！ 外だ！ 新しい世界だ！」
「フリスビーを持って来て！ お弁当は？ 原っぱだ！」と叫んでいると思うけど。
ノアは違いました。

*ノアは主のために祭壇を築き、すべてのきよい家畜から、また、すべてのきよい鳥からいくつかを取って、
祭壇の上で全焼のささげ物を献げた。(創世記 8:20)*

神がそうするようにと命じたわけではないのに、彼はそれをしたのです。

その数は？ たくさん。

彼が最初に行ったことは、子供たちに家を建てたのではなく、洪水被害について保険会社と話をしたのでもなく、家族とのフリスビーでもない。

出て行って仕事を探すのでもなく、用事を優先させることでもない。

真っ先にノアがやったのは、祭壇を築いて、清い動物を全焼のささげ物として献げたこと。

神を喜ばせるために。

この場面から、彼が閉じ込められていた中で、神の臨在を楽しんでいたことが分かります。

彼は、まず祭壇を築きました。

私なら「ノア、ちょっと待って！ ナニしてるんだ!？」

「世界中の生き物が滅びたのに、更に動物を殺したりして！ これらの動物によって、全地球の生き物を増やさなきゃいけないのに、貴重な資源を焼いてしまうなんて！」

「こんな祭壇を建てたりして、資源の無駄遣いだ。」

「その気持ちは称賛するよ。でも、もっと現実を見ようよ。限られた数の動物をこんな風に殺しちゃダメだ。もったいないよ。」

私の中でこんな声が聞こえた時、私は自分の不甲斐なさに気づきました。

もう一人、貴重な資源が流されていくのを見ている人がいました。

女性が高価な香油を主に注ぎましたね。

当時の人々の年収と同じくらいの価値あるものでした。

彼女がそれをイエスに注ぎかけると、ある男が「待ちなさい！ 何のためにこんなムダなことをするのか。そのお金で貧しい人たちに施しができたのに。」(マタイ 6:6-13)

そう抗議した男の名前はイスカリオテのユダ。

イエスは彼をたしなめて言いました。「彼女はわたしのためにしたのです。」

ようやく分かってきたこと、それは、神はミニストリー、働き以上に礼拝を尊ばれるということ。

私たちは働きが大事だと思いがちだけれど、神は「No!」「礼拝が先!」と言われる。

あの日、イエスがサタンに言ったことは、「サタンよ、わたしはおまえを拝まない。」

『あなたの神である主を礼拝しなさい。主にのみ仕えなさい』と書いてある。(マタイ 4:10)

ここで、順序に気がつきましたか？

あなたの神である主を礼拝しなさい。 礼拝が先。

主にのみ仕えなさい。 これが次。

私たちが一生懸命仕えていながら、働きをしながら、礼拝者でないとしたら、最優先すべきことを失っているのです。

あなたは、アフリカ伝道には行けないかもしれません。

大きな会場で伝道するような人ではないかもしれません。

歌で伝道するような歌手ではないかもしれません。

だけど今夜、ここにいる一人ひとり、全ての人ができること、優先順位の一番上、最も神を祝福すること、それは、伝道でもなく、聖書を教えることでもなく、歌を歌うことでもない。

建物を建てることも違います。

最も尊ばれること、それは、礼拝することです。

エゼキエル書 44 章。

祭司がイスラエル人に罪を犯させた時、神は「民の前に立ち、教え、導きなさい。」と言いました。

しかし、*「ツァドクの子孫のレビ人の祭司たちは、わたしに近づいてわたしに仕え、わたしの前に立ち、わたしに脂肪と血を献げることができる。」(エゼキエル 44:15)*

それぞれがささげる礼拝や、イエスとの親密な関係と比べれば、このところで神が言った「民の前に立ち、民に与え、共に働きなさい。」というのは罰だということが分かります。(エゼキエル 44:10-14)

今ここにいる誰もがみんな、最高のミニストリーをすることができるのです。

ノアは箱舟から出た時、その手本を示してくれました。

あなたはどうですか？ 私はどうだろう？

この中のいく人かは、今夜帰宅して神を礼拝し、明日の朝、目が覚めて主を礼拝するでしょう。

それは最高に尊くて、最も愛おしい行為です。

そして、そのことがあなたを大いに祝福し、最高の形で主をたたえることになるのです。

それがあなたの内面を大きく変え、あなたの人生は改まるでしょう。

ノアはまず祭壇を築いた…彼が箱舟を出て最初に行ったこの行為に、私は本当に感動しました。ノアによって祭壇が築かれ、絶えず賛美のいけにえが献げられ、唇の果実で主の御名がほめたたえられたのです。

主は、その芳ばしい香りをかがれた。そして、心の中で主はこう言われた。(創世記 8:21)

ちょうどこんな風に (香りを胸いっぱい吸い込む感じ)、「ああ、何と素晴らしい！ わたしは命じていないのに、ノアは箱舟から出て、その足でわたしの元へ来た！ 彼は本当にわたしを愛している！」

そして、心の中で主はこう言われた。

「わたしは、決して再び人のゆえに、大地にのろいをもたらしはしない。

人の心が思い図ることは、幼い時から悪であるからだ。」(創世記 8:21)

「人には、生まれながらにして墮落する悪の性質があることを、わたしは知っている。

しかし、人の思い図ることが悪であったとしても、そして、その悪や弱さがずっと持続したとしても、それでも、(大きく香りを嗅いで) ああ、何という祝福だろう！」

今、わたしはこの場所でささげられる祈りに目を開き、耳を傾ける。

今、わたしはこの宮を選んで聖別した。

それは、とこしえにわたしの名をそこに置くためである。

わたしの目とわたしの心は、いつもそこにある。(II 歴代誌 7:15-16)